

ピコルアのバトン

佐伯 世理菜

ニユージーランドの小さな町に父の転勤で  
 来てからあつたという間に二年が過ぎました。  
 東京のお友達と別れたくないと言っていたあの  
 頃が今となっては信じられないほど遠い日の出  
 来事に思えます。ニユージーランドに来てい  
 なかつたらと想像すると今の私は私ではない  
 と言いきれるほどです。そのように思えるよ  
 うになつたのは、ニユージーランドで出会っ

【海外子女教育振興財団】

た親友のモリーとエバからピコルアを受けと  
 ったからです。ピコルアとは「ニユージーラ  
 ンドの先住民族マオリの言葉で「友情」「絆」  
 文化の交流という意味です。  
 モリーがピコルアの証であるひすいのネッ  
 クレスをお誕生日にくれた時に教えてくれま  
 した。マオリ族にとってパワーストーンであ  
 るこのひすいは、作られた形によって色々な  
 意味があり、私がもらったのは「ピコルア」  
 でした。モリーから受け取ったのはピコルア

の象ちようであるネックレスだけではなく、  
 本当の意味のピコルアでした。それは、この  
 地で「走る」楽しさを知ったことです。東京  
 では全く聞いたことがなかった。クロスカント  
 リーというスポーツを走ることが好きなモリ  
 ーと始めたのがきっかけでした。ワロスカン  
 トリーとは、自然の中の道な道を走るスポー  
 ツです。モリーとは、休み時間に話しをしな  
 がら校庭を何周も走ったり、体育の授業や大  
 会では競い合って走りました。そのおかげで

【海外子女教育振興財団】

ニりそろって国体に出場することができまし  
 た。モリーとは、はげまし合ったり、でも時  
 にはライバルになったりと一緒だった。からこ  
 そ苦しい練習も乗りこえることができたと思  
 います。

エバから受け取ったピコルアは、本を読む  
 楽しみを知ったことです。日本語の本を読む  
 方が好きだった。私に英語の本を読むきかけ  
 楽しさを教えてくれました。エバは読書家で  
 クリスマス休みには、百四冊も本を読んだほ

びです。図書の間、私が一チャプターしか  
 読んでいないのにエバは一冊読み終えていた  
 り、一日で分厚い本を読んできました。と  
 ともか、こいひのです。私に合った本を教  
 えてくれたり、私が頑張って読み終えたらそ  
 の本について話したりしているうちにいつの  
 間にか英語の本を読むことか楽しくなってい  
 ました。  
 この二年でたくさんのピコルアを受け取っ  
 ていた私ですが今度は私がピコルアを渡す時  
 が来たと感じました。  
 先日、タイ人の留学生のギンジーがクラス  
 に来ました。休み時間、みんながワイワイと  
 ギンジーのまわりに集まり話しかけていまし  
 た。ギンジーはみんなの言っていることが分か  
 らなかつたらしく、笑顔だけど動揺している  
 のが分かりました。でもクラスのみんなは、  
 おかまえなしに話し続けています。私も、日  
 本から来たばかりの時全く英語が分からなか  
 ったのにかこまれてうれしかつたけど、どう

して良いか分からなかった。初日を思い出しました。休み時間が終わり、先生の指示でギンジーは私のとなり席になりました。ギンジーと目が合い、彼女は軽く笑顔をくれました。たけで何も言いませんでした。か、  
「よろしくね。色々教えてね。」  
と言っているように思えました。  
この二年間でモリーとエバから受け取ったピコルアを今度は私が誰かに渡したいそう思った。小さいことかもしれないが、ピコルア

【海外子女教育振興財団】

のバトンが世界のどこかで渡れば、きっと幸せもつなげていくと私は信じています。二  
ユージーランドで受け取ったピコルアのバト  
ン、私は一生分けて渡りたいです。